和漢脩身書

山内貢編纂

六

東京師範學校稲垣千頴先生閲正
竹溪山内責先生編纂

和漢修身書

東京師範學校圖書館
類 倫理
屬 修身
冊 一
函 貳
行 拾壱
級 壱

文學社發兌

明治十六年十月十三日納付 林義則

東京師範學校圖書館

和漢修身書卷之六

稲垣千頴閲正
山内　責編纂

第六章

○北畠親房曰、凡王土ハ生まれて王臣となる者忠を盡し命を致すハ人臣の常道なり、

○曹植曰、人の世に生まれ出ハ則親

ふ事へ、出てゝハ則君ふ事ふ、親ゐ事へてゝ
も親ゐ昌榮ふらんことを願尚ゑ、君ふ事
へうゆハ國を隆興せんことを貴ぬ、
○張詠曰、廉よりて貧を言ゑ、勤をて苦
ゆ言ゑ、忠ゐ〜ゆ己の效を言す、功ゆり
て己ゆ能を言ゑ、斯を以て君ふ事ふを
し、
○雨森東白、凡事時ゐ及ふ、ゆ貴ぬ、父
母に事ふる者は親ゐ未老ひきるふ孝
せよ、君ふ事ふる者ハ國ゐ未亂れさる
に謀れ、
○中江原曰、誠正以て其の身を修め、君
ふ事ぬるに忠を致し、親ふ事ふるふ孝を盡
し、貧なりとも濫ふおとふ、賤なり
とも枉ゝるおとふ、
○今川貞世曰、君父の恩を忘ふゝおを

勿れ、忠孝の道を失ふこと勿れ、公事を輕んじ私事を重んぜるこを勿れ、

○董仲舒曰、勉强して學問すれは、見聞博くして智益明かなり、勉彊して道を行へは、德日に起りて大ふ功あり、

○程頤曰、君子の學ハ、必日ふ新なり、日に新ふるとれと日に進む、日ふ新ならさる者は、必日に退く、未進ますして退かさる者はあらす、

○朱熹曰、學問を爲るには、須らく今ハ是ふして昨は非ふるを覺ゆへし、日ふ改め月に化して、學問進むへし、

○財ふ臨みて苟こくも得ること毋れ、難に臨ては苟しくも免るゝこと毋れ、狠ふ勝さんこを求むること毋れ、分つふ多のらんこと求むはこを

毋れ 禮記

○小人は義理を知らず、或は名を求め、或は利を求む、凡以て名利を得へきものハ、之を求めさるなし、讀書錄

○池田光政曰、奢と吝とハ、跡異にして其の心同し、皆一心より生す、人能く此れ慾を制せハ、此の累なし、

○貝原篤信曰、凡事を作るに、始を慎み慮れば、過寡く悔少し、故に事を作すには先思ふ、思ひて後に事を作せは、必過なし、過てハ必悔あり、

○清れ魏禧曰、世間第一に敬すへき人は、忠臣孝子なり、世間第一に憐むへき人は、寡婦孤兒なり、

○貝原篤信曰、思案は静ふして、急かさるを良とす、急ふ決定すれは、必ずやはな

りあり、

○尊圓法親王曰、人と生まるゝ一ハ能無き者は、畜類にも劣れり、畜類もなほ其ハ己か爲る業あり、草木も猶功能多し、人をして能なき者は、天之を棄て、無きか如くに、心にらんをはた、耻をへたる事ゝにらをや、

○志小なる時は、自足れりをほゝ易し、故ゝ怠りて日に新なる功なし、氣輕くして沉着せさる時は、自大なりとするに易し、故ゝ虛誕ゝして實ゝ得る所なし、讀書錄

○程頤曰、吾未財に嗇にして能く善を爲る者を見す、吾未誠にらをして能く善を爲る者を見す、

○速ゝからんを求ゝ找欲をほゝと勿れ、

小利を見ることなかれ、速やからんことを欲すれば則達せず、小利を見れば大事ならず、論語

○今は人恩惠を受ることは、多々記省せば、人は惠むことたまは、微物と雖、亦歴々心にあり、古人言へるごとくなり、人に施しては念ふこと勿れ、施しを受けては忘ふこと勿れ、袁氏世範

○周敦頤曰、不善の動きは妄なり、妄復ることは、妄ふ、妄ふることは誠なり、

○話の多きは、話の少きに如かず、話の少きは、話は好和に如かず、五種遺規

○曾參曰、孝子の親を養ふは、其の心を樂ましめ、其の寢食を安んし、其の飲食を以て、之を忠養す、

○又曰、父母吾を愛すれは、喜んて忘れす、父母吾を惡めは、懼まて怨むはなし、父母過あれは諫めて逆はす、

○北條時賴曰、親の教訓は、苟且にも背くへからす、此のふる親ふをを、我ふ惡しかれと思ふ事あらし、

○朱熹曰、父母の子を愛する心、未嘗て少しも置こす、人乃子ハ父母を愛する心も、亦當に片時も忘ときるなし、

○細川賴之曰、人の爲ふ謀りて忠なるは美事ふめを雖、專朋友ふ忠にして、忠を君に闕くこの如きふをハをへからす、是人の最心を用ゐるへき所ふを、

○林友直曰、交友を撰ふへし、諺ふ曰、朱に交れは朱に化す、善人と交れは善になり、惡人と交れは惡ふふるふを、

○朋友過ちあり、之を規せざるべからず、獨處せ時に於て、婉言以て之を規せざるべし、其の惡を衆前に暴すべし、以て仇隙を招くべからず、暗室燈

○薛居正曰、人の嘉慶あるを見て、妬忌の心を生ずべからず、人に禍患あるを見て、喜幸の心を生ずべからず、

○北條時賴曰、船は櫓楫を以て大海を航し、人は正直を以て世に交るべし、櫓楫なくば船ありとも雖、大海を航すべからず、人正直ならざれば意外の横難を來すべし、

○貝原篤信曰、古語に曰、少壯の時努力勉さざれば老大にして徒に傷悲すと、少時に能く之を考へて後悔なからん事を思ひ、時日を惜みて勤むべし、

○玉琢のさまハ器成さす、人學をきれた道を知らス、禮記

○人と言ぬとたハ、宜しく和氣從容なるへし、氣怒る時は平かならす、色厲しき時ハ人ハ怨を取る、讀書錄

○老聃曰、天下の難事は、必易きに作り、天下ハ大事は、必細事を成ス、

○貝原篤信曰、友とする人は、尤之を撰ひて、其の智ありて、我ゝ過を正し、善を勸むる忠直の者ゝは、親しく交るへし、柔和ゝして我の心ゝ協へるも、直諒なる人を、我ゝ益なき者なり、

○又曰、凡夫の心は賴しけなし、親厚けれとも變し易し、今親むと雖後を保ち難し、人の心を賴みて過りを勿ス、

○楠正成曰、人を觀るに、言行一ふゝを

のは賢者なり、縱ひ其の言良と雖、其の行邪ふるもけた、不肖者なり、諂無く私無きをけハ能者なり、

○林逋曰、德餘りてなりて足らをと爲るもの、は謙なり、財餘りて足らをと爲ふをけハ鄙なり、

○北條時賴曰、我身富貴にして、威勢ありとも、人を賤しゝ侮るへゝ、この理す、諸人に憤られ、恨ゝ怨うゝとハ、災難家に來るをなりるを、

○佐藤坦曰、少しく才ある者ハ、往々好みて人を輕侮し、人を調笑す、失德と謂ふへゝし、侮を受くる者、徒ゝ已ます、必憾みて之を譖る、即自譖ふふり、

○薛居正曰、人の微賤なるも、皆當に誠敬を以て之を待つへゝし、忽慢にすへゝか

らす、

○貝原篤信曰、君子は人と接るは、禮讓を以てす、故に爭ふ所なし、夫の才能を爭ひ、功業を爭ひ、權力を爭ひ、意氣を爭ふは、皆小人の爲る所にして、禮讓の道に非す、且禍を取る道なり、

○張采曰、世人、自養ふに厚く、子先祖に薄く、賓客に厚くして祭祀に嗇なり、習ひて俗と爲り、恬然として怪はなく、歎くへき哉

○言を愼むは、最是難き事なり、只人と相交りて、輕易に一言をも發せつらす、發して人從ふきは、是失言なり、謹むへきのみ、讀書錄

○方孝儒曰、口より發して、善き事をなし、惡を去り、善を爲す、又人に加へて、人

喜ひ、人嗔る、世に用ゐられて、或は事を敗り、或は事を成す、書に載せ傳へて、賢とふ、愚となす、嗚呼言を發するに慎はるべしかるべし、

○道を知れは、言自簡なり、是道に非れは、敢へて言はさるを以てなり、讀書錄

○貝原篤信曰、内に誠なき者は、其の言必先後あり、内に誠ある者は、不辯舌なりと雖、其の理必聞ゆ、是誠内よりのりて、外に顯るゝ此驗ふ、

○又曰、凡學問して親に孝し、君に忠し、家業を成つと、身を立て、道を行ひ、萬の功業をなすも、皆難き事を嫌はす、苦勞を堪へて、其の業をよく務むるを、成就次、

○未言はさる前に誠意のまハ、則言出

て、人之を信す、從政名言

○人一度して之を能くせば、己之を百度し、人十度して之を能くすれば、己之を千度す、果して此の道を能くすれば、愚と雖必明なり、柔なりと雖必彊し、中庸

○人性は勤むるに在り、勤むる時は乏しからず、漢書

○劍利なりと雖、礪くせざれば斷れず、材美なりと雖、學ばざれば高からず、韓詩外傳

○嘉殽ありと雖、食はざれば其の旨きを知らず、至道ありと雖、學ばざれば其れ善きを知らず、禮記

○書を讀むは多きを貪るに在らず、只反復熟讀するを要す、精思をほしと久

しれやきハ、義理自然に貫通す、願集 體

○有用の學は、譬へは夏時の葛衣、冬時の裘のおもし、若し之を作るもの無きときは、生民の用欠くるふ至、省錄 醫

○忍ぬること能はさる所を忍ひ、容るること能はさる所を容るゝは、惟識量人に過きさるとれ之我能こ以、讀書錄

○外物を得るも喜ひす、之を失ふも亦怒らきれハ、心定まる得と失とにつきて喜怒する時は、是外物に累されて、心未定はらきはふ至、仝上

○貝原篤信曰、凡人の所爲多し、と雖、之を要すれは、言行は二ゐ過きす、言を信にし、行を篤くもて、自修る、故ゐ言を謹み行を慎むは、身を修る道なり、

○又曰、善人は人の志を感し、善行を聞

きては親疎となく喜ふ、惡人は人の貧賤を侮り、富貴を羨み、諂ぬをれ、ぶめり、

○人は貴賤を論せず、一日當に作すへき事あり、若し飽食煖衣して事を事とせさる時は、好結果たるをすふし、（顧體集）

○禍福は門なし、唯人の招く所なり、（左傳）

○事を處し物に應するは、己か偏好に徇ぬへからず、須らく當に爲へきと爲るへからさるを、理に當ると、理に當らさるとを省察すへし、（居業錄）

○安重深沈なる者は、能く大事を處す、輕浮淺率なる者は、大事を處することを能はす、（從政名言）

○李邦獻曰、言を以て人を傷ふをは、利きこと刀斧の如く、術を以て人を害をるをは、毒をるをや虎狼の如し、言

慎まきるべきや、術擇たちるべきや、

○君子は、安くして危きことを忘れず、存して亡ぬるときを忘れず、治に居て亂るることを忘れず、繫辭傳

○心堅確ならず、志奮揚ならず、力勇猛ならずして、義に徙り過を改めんと欲すれは、千悔萬悔すと雖、竟に分毫の補なし、畜德錄

○人の聞えんときを無らんときを我欲せは、言ふこと勿れ、人の知ることなからんときを欲せは、爲ることを勿れ、願體集

○卜部兼好曰、碁を善くする者は、勝つことを務めずして敗れざるを務む、故に善く勝を制す、身を修め家を治むる道も、亦之と異ふことなし、

○酒後の語を誡め、食後の嗔りを忌み、耐へ難き事を忍ぶるは、是自強むる人なるべし、世範

○邦良親王曰、人は功ありて言尠く、他人の功を妨げざるを善とし、大概人は、言先出て、其の功ふきをれ多し、

○一坐の中に、好みて人を彈射する者あらば、吾ハ宜しく端坐沉黙して、之を鎖すべし、此を不言の教へといふ、願體集

○貝原篤信曰、盛怒の時にあたりては、愼みて妄言を發せざるを言を勿と、之を妄りにせざるハ、必悔ひ至、

○紀德民曰、眞に學を好む者は、自心を飲食衣服に奪はれず、人心を敗り、君父を忘るゝ等の徒は、原奢侈の心より生す、

○窒直清曰、書を讀むゝは精覈ならんことを要して、多きを要せず、一寸の鐵も善く之を鍛錬せは、物を斷るへし、三尺の劍も鈍なる時は、物を傷ふのみ能はす、

○又曰學問は勉强を要す、唯急ゝして迫切ゝらんとせ我畏る、義理は涵泳するを貴ふ、緩ゝして懈馳ゝらんとせ我戒む、

○聖賢は、世人の皆善ならん事を欲するなり、其の書を讀ゝハ、其れ心我見ゝるゝ如し、たゝのゝふゝ、其れ心を體して我か心と爲ること能はさるは、自其の書を棄るゝと謂ぬへし、讀書錄

○節儉朴素は人の美德なり、奢侈華麗は人の大惡なり、從政名言

○徳川家康曰、大厦高堂も、起臥するは八尺ゟ止り、良田萬頃も、食餌は一升に過きす、華屋美食のみを以て、他の志なく、竟ゟ終身を誤る者は、亦何乃心そや、」

○羅從彦曰、君の明なるは臣ゟ福なり、臣ゟ忠ふふハ君の福なり、父の慈ふふハ子の福なり、子ゟ孝なるハ父の福なり、父慈にして子孝ふとハ、家道隆盛なり、之を福と謂ゝきふへ、ゆんや、俗人富貴なるを以て福を得とゆ、ゆゟ、陋い哉、」

○老聃曰、吾か身と貨財と、孰か親しき、身は一のみ、世には、貨財を得んと欲して身を失ふ者あり、何そ愚の甚しきや、」

○林友直曰、信は、事ゟ、ゆ偽なく、實を以て人に接ゝふ、以ふ、上天子より、下庶人に至るまて、信ゟまハ人服し、信な

けれは人背く貴ぶ賤となく務めて信を失ふこと勿れ、

○陸贄曰信と誠とは補ひありて失なし、一も誠あらざる時ハ必信を保つことなし、一も信あらざる時も言はざるを之を行ふをあし、

○熊澤伯繼曰偽無きは天道に從ふなり偽あるハ天道に背くなり君ハ忠を盡し、親に孝を致し、衆人に慈惠ある之を眞の道とす、

○本多正信曰君子も正直ハ疑ハも直言して諱まず小人は頑鈍ハ多恥ふく諂諛ハて媚ひ好む、

○人は隱事を言ひ人の短を謗り人の事を難し人は恥ひ訐く者ハ終ハ禍を招き身ひ亡ぶに至る、十訓抄

○藤原經忠曰、人は急を救ひ、人の貧を助け、廢を興し、絶を繼けハ、天必之ゐ福し、其の名天下ゐ聞ゆ、唯身ゑ計り人を顧ミさるゑ、隣人も其は名を知らし、

○德川頼宣曰、多く人の言ゑ聽き、其の善ゐる者を擇ひて之ゐ從へゑ、衆人は智ハ即我ゝ智ゐゆ、其は智豈測はへきんや、

○三浦晋曰、人能く人は善惡を見て、己は善惡を見はこゝ能ゑし、人の善ゑ見て之ゐ從ひ、人は惡を見て之を戒めハ、往く所とゝて教へゐらきるゑゐ、

○佐藤坦曰、得意の事多く、失意は事少きゑハ、其は人智慮を減ゑ、不幸と謂ぬ亟し、得意の事少く、失意は事多けれゑ

其の人智慮ハ長ケ、幸と謂ぬへし、

○李絳曰、憂ケ事ふ先ちて憂ふまハ憂ふ〳〵事至りて憂ぬまた事を救ふ方を能たし、

○安藤守約曰、居處ケ須らく是恭敬ふるへく〳〵て倨肆怠慢ふこを戒得ケ、言語ケ須らく諦當あるへく〳〵ゑ戲笑喧嘩をすることを得し、

○徐偉長曰、君子ケ口ゑ戲謔ハ言無く、言必防あり、身ゑ戲謔ハ行無く、行必撿あり、

○劉伯繩曰、學問ハ要ふ只是倫常日用の間ゑ於て輕〳〵く放過せし、日ゑ積ミ月ゑ累ぬまハ、自然ゑ廣大高明ハ田地ハ造ふへし、

和漢修身書卷之六 終

明治十五年十一月十六日版權免許
明治十六年一月　出版

文學社出版書目　東京大傳馬町二丁目一八番地

改正小學考鏡　三冊　校正新編農業往來　全一冊　校正小學日本地誌　上下二冊
校正小學修身篇　上下二冊　新編商賈往來　全一冊　小學萬國地誌　二冊
小學修身編三編　完一冊　新編消息往來　全一冊　日本地誌畧　舊稿　臭地理總論　全一冊
校正小學修身鑑　上中下三冊　小學書牘　練習字本　二冊　日本地誌畧　三四冊　舊稿　近刻
男女普通小學諸禮法　上下二冊　三体紀事文　楷書之部　全一冊　漢刻小學日本略史　三二冊
單語圖　兩面摺三枚　同　行書之部　全一冊　動物初步　全一冊
短句圖　兩面摺四枚　同　草書之部　全一冊　植物初步　全一冊
小學讀本首卷　完一冊　三体千字文　楷書之部　一　帖　金石初步　全一冊
小學讀本首卷　甲号一冊　乙号一冊　同　行書之部　一　帖　改正物理小誌　上中下三冊
小學讀本　三冊　卷八冊　同　草書之部　一　帖　小學物理問答　上中下三冊
小學習字本　以名字尽之部　以音月明字之部　全一冊　小學筆算　全書　農業　筆算　七冊　小學生理篇　三冊
同　日本國名尽用縣名尽官名尽之部　全一冊　小學筆算全書巻式　農業　十七冊　巻十書巻式　小學幾何學　二冊　近刻
同　名字尽之部　全一冊　小學和算新書　農業　七冊　小學經濟論　上下二冊
同　苗字抄之部　全一冊　小學語算教授書　二冊　女學裁縫新書　全一冊　近刻
同　容易古上書類　各会議選重部　全一冊　小學日本地誌　小學萬國地誌　真米地理總論　全一冊　家政小學　三冊

172

和漢脩身書

山内貴編纂

七